

幼児教育長期派遣通信 2学期号

発行 令和4年1月26日

竹原市立中通小学校 板垣 祐美（派遣園：広島大学附属幼稚園）

本年度、「幼児教育長期派遣研修」として、広島大学附属幼稚園で研修をしています。

1学期同様、日々、園児たちが遊びに没頭する姿を観察し、園児の思いや考えに共感しながら、5つの力の育ちについて考え、小学校以降の学びへのつながりについて考えています。

1 2学期の研修内容

(1) 園内研修

- ・園児観察 ・園内環境の整備と安全点検
- ・研究日に参加（援助、ルーブリック評価等）
- ・行事に参加（誕生会、グローバルデイ（英語）、うーんとうごく会、サツマイモ収穫、森の日、稲刈り、研究会、そらぐみの日、園外保育、野鳥を見る会、避難訓練、参観日等）
- ・保護者に向けて、入学に係る質問会開催
- ・研修（長期派遣研修報告会②③、接続に係る研修会③④⑤⑥、幼児教育理解に係る研修会③④ 幼稚園等教育課程研究協議会、幼児教育アドバイザーによる訪問指導）

(2) 園外研修

- ・所属校に入学してくる園児の実態把握
- ・「乳児保育における5つの力の育み」事業に係る 公開保育
- ・令和3年度竹原市発達障害児巡回支援事業に同行

2 研修を通して

今回は、「つなぐ」という視点から、接続期において、何をどのようにつなぐかについて、子供たちの具体的な活動や姿から考えたいと思います。

【遊びの中に見る、資質・能力の芽生え】



知識や技能の基礎
思考力、判断力、表現力等の基礎

重い木槌をコントロールするために力を入れる場所を考え、振り上げている。



思考力、判断力、表現力等の基礎
学びに向かう力、人間性等

餅つきの経験から、木槌を細かく動かして、もち米をまとめる真似をしている。

A児が木槌を地面に打ち付けている。A児が無言でたたき続けると、「餅つきみたい。」と、声上がる。B児が、「僕もやってみよう。」と言う。木槌を渡されたB児は、振り下ろすが、「重い！」とよろける。次はC児が、「重い……。」と、顔を真っ赤にして木槌を振り下ろし、その後小刻みに周囲の土をこね始める。今度はB児が、「わかった！こうやってもつんよ。」と、少し木槌の先を挙げ、手の位置を小刻みにずらす。手の位置を決めると、木槌を高く振り上げる。「ほら、大人みたいに持ち上げたよ。」と得意げな顔をする。すると、D児が、「水を入れてみようよ。」と提案する。A児は、「もう、少し入ってるよ。」と答える。よく見ると、餅と思われる土は、確かに湿っている。今度は、B児が、「もう少しだけ入れるといいんじゃない？」と言う。「お餅って、もう少しトロトロしてるよね。」と付け加える。みんなが同意し、D児がそばにあったやかんの水を少し入れる。そのまま、D児が木槌で土の餅をつく。数回ついてD児は、「もっと入れようよ！」とワクワク感でいっぱい表情で提案する。「ドロドロにならない？」と、C児が言うが、「いいの。」と、D児は水をたくさん入れる。B児が周りの乾いた土を混ぜて、木槌を小刻みにつく。それから、高く振り上げ思い切り木槌を下ろす。「ベチャ」の音と共に泥がB児の上半身に激しく飛び散る。



学びに向かう力、人間性等

A児が木槌で土をたたき動作や音、土の変化などをおもしろいと感じている。

思考力、判断力、表現力等の基礎

D児は土の様子を見て、餅のように柔らかくしたいと考え、水を入れる提案をしている。

知識や技能の基礎

泥を木槌でたたき、勢いよく飛び散ったので驚いている。

【様々な遊びの中に見る資質・能力の芽生え】



飼育・栽培の経験

四季を通じた栽培の経験で、植物の成長への気付きや関心を高めています。収穫し、味わうことで、動植物だけではなく、食への興味も広がっています。



文字や数とのかかわり

遊びや活動を通し、必要に応じて文字や数が用いられています。互いに教え合ったり、近くに文字のお手本を探したりする様子が多く見られます。

遊びを通し、自然とかわる中で、生物の特徴や生態への興味が広がっています。友達と協力して遊びをつくり上げたり、子供同士で話し合って役割分担したりしています。



自然や友達とのかかわり

幼児教育では、遊びを中心とし、環境を通して、

知識や技能の基礎
思考力、判断力、表現力等の基礎
学びに向かう力、人間性等

小学校教育以降につながる、これらの資質・能力が総合的に育てられています。

小学校へ

子供たちに育ててきた力を小学校につないでいくためには、**経験や学び・育ちを連携し、教育課程を接続する**必要があります。**教職員の連携で、学びや育ちを共有し、実態把握や指導に生かす**ことは、入学後の子供たちの**安心**を育む基盤となります

園所での学びや育ちを踏まえ、何をしたらいいだろうか？
(連続性)
更に何ができるだろう
(発展性)

連携を通して得た情報を踏まえて、スタートカリキュラムを編成する

- 例えば、**安心の土壌作り** 遊びを通して学ぶ幼児期の特性を理解し、遊びを通して関係を深めたり、教科の学習に触れたりする時間を作る→学びの連続と発展の視点を持って
- 学びの始まりに「ワクワク」を** 単元計画や授業の導入を工夫し、主体的な学びの場となるように
- 弾力的・効果的に** 園所では遊びの深まり具合で活動の時間を調整することもある→入学後の1時間の区切りを弾力的に。カリキュラムマネジメントで効果的に。

3 まとめ

季節と共に刻々と変わりゆく自然環境の中で、園児たちの遊びも変化や進化をし続けています。園児たちの遊び、学ぶ姿にたくさんの刺激を受け、自身の学びも深めています。また、2学期は、自校のスタートカリキュラムの改善に向けて取り組みました。3学期号では、スタートカリキュラムの具体についてお知らせしたいと思います。

〈乳幼児教育支援センターより〉
幼児教育において育みたい資質・能力は、遊びを通じた総合的な指導の中で一体的に育まれます。小学校においては、それらを理解し、さらに伸ばしていくことができるようにすることが重要です。そのためには、両方で子供の発達や成長を語り合い、学び合う中で、お互いの教育を理解すること、それらを具現化した接続カリキュラムをともにつくるのが大切です。